

令和5年度 通常社員総会

令和5年 9月 1日 (金)

オンライン方式 (Zoom) による

一般社団法人

地域国土強靱化研究所

【総会】

◆日時：2023年9月 1日（金）13：30－14：30

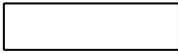
◆場所：オンライン方式（Zoom）とする

◆総会次第

1. 開 会
2. 代表理事挨拶
3. 定足数の確認
4. 議長選任
5. 資料の確認
6. 議事録作成人並びに署名人の選出
7. 議 案
 - 第1号議案 令和4年度活動報告
 - 第2号議案 令和4年度活動計算書報告
(会計監査報告付)
 - 第3号議案 令和5年度事業計画
8. 閉 会

◆LRRR交流会

同日 14：40～16：30 オンライン方式（Zoom）



令和3年度活動報告

1. 総括

“先義後利”を社是として、災害等に対して脆弱化する地域社会のレジリエンスを高めることによって地域社会の強靱化に貢献することを目指した活動を継続した。幸い、会員や関係機関の協力もあって、【事業部】、【技術開発・展開部】、【教育支援部】とも順調に進展していると評価するが、課題も残されたので、次年度以降はこれらの克服を目指し、所期の目的を達成できる体制を整備する所存である。

2. 事業報告

(1) 総会

◆日 時：令和4年 8月24日（水）14：00－17：00

◆場 所：茨城県産業会館 1階 研修室

(2) 理事会（役員会）

令和4年度理事会（役員会）

- 第1回理事会 令和4年 7月28日（木）10:00－12:00
会議方式：オンライン（Zoom）
- 第2回理事会 令和4年 9月21日（水）14:00－16:00
会議方式：オンライン（Zoom）
- 第3回理事会 令和4年11月 2日（水）14:00－16:00
会議方式：オンライン（Zoom）
- 第4回理事会 令和4年12月19日（木）14:00－15:30
会議方式：オンライン（Zoom）
- 第5回理事会 令和5年 2月 9日（木）10:00－12:00
会議方式：オンライン（Zoom）
- 第6回理事会 令和5年 4月 5日（水）14:00－16:00
会議形式：オンライン（Zoom）
- 第7回理事会 令和5年 5月29日（月）14:00－16:00
会議形式：オンライン（Zoom）
- 第8回理事会 令和5年 6月30日（金）(14:00－16:00)
会議形式：書面（メール）会議

(3)事業部活動

① 第2回会員報告会の開催

令和4年8月24日（水）の年次総会後に、3名の新入会員のご紹介と、賛助会員・個人会員から5編の報告をフリーテーマで実施しました。3編は国土強靱化に供する防災・減災技術等に関わる取組み・事例紹介でした。また岸田副代表からは、LRRIが実施しておりました「グランパカズ塾」の状況報告をいたしました。最後に安原代表より、LRRIが取り組んでおります「気候変動対応戦略」についてこれまでのご報告をさせていただきました。限られた時間の中でしたので十分な意見交流とまでは参りませんでしたが、今後はテーマを絞ることも考慮し、このようなイベントを通じて会員の皆様と更に親交を深めていく所存です。

② 茨城大学委託業務の遂行

令和3年度に引き続いて、茨城大学より、「気候変動影響予測・適応評価の総合的研究（S-18）」（環境省環境研究総合推進費）のサポート業務の一環として、「気候変動適応策オプションの分類に関する調査委託業務」の委託を受けました。国、自治体、事業者（企業など）から公表されている国内の事例を中心として442件（一部、IPCCにおける事例も含まれている）の適応策を整理し、① 調査報告書、② 個票、③分類一覧表（一式）、④ 追記集としてまとめました。この成果は、大学のホームページにアップされたのちに、会員の皆様にも公表させていただきます。

③ 会員開発技術の推進支援

賛助会員である㈱水戸グリーンサービスが「多数アンカー式補強土壁」を基本として開発中の工法である「レックスウォール工法」の試験施工に際して、LRRIとして技術支援を行いました。

茨城県城里町の試験ヤードにおいて、補強土背後地盤で「スクリューウエイト貫入試験」を実施するとともに、盛土試料の物理・突固め・三軸圧縮試験を実施し、アンカー緊張効果による地盤強度等の関連を確認しました。今後はアンカー・抵抗プレートの配置、及び時間効果も加味して、引続き本工法の有効性を検証してゆく所存です。

④ 書籍出版

LRRIとしては初めての試みですが、LRRIの編集・発行により、常田賢一（LRRI 顧問）著：「防災・減災、国土強靱化のための性能評価の最適化の実務－個別最適から全体最適への展開－」の書籍を、令和5年3月に出版しました。販売は外部委託し、事務の円滑化を図りましたが、今回の出版活動に基づいて、LRRIにおける「刊行物出版規定」を策定し、次回以降の出版にもLRRIの活動成果の見える化を図っていく予定です。なお、販売は、東京官書普及（株）（〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-2 TEL：03-3292-3701）に依

頼っています。

(4) 技術開発・展開部活動

① 「気候変動対応技術展開の基礎作り

事業部と連携して茨城大学から委託を受けた“気候変動適応策に関するアンケート調査”と、それに続いて現在委託を受けています“日本における適応策の集約&分析業務“（事業部②参照）を中心にした活動を行っていますが、その成果を会員の皆様に還元し、成果を共有する努力を続けていく所存です。

② インフラリハビリ技術のさらなる展開

茨城大学と産学連携した『フォームサポート工法により補強された橋梁の1G場振動台実験による耐震性評価』を令和4年度はエルリも加わり、茨城大学・東亜建設工業・JSP・エルリの4組織で共同研究を行いました。

内容は、東亜建設工業保有の一次元振動台を用いて橋台模型の背後地盤沈下量、水平変位量の計測をL2地震動までを想定して行い、L2地震においても、耐震性能があるという結果を得ました。引き続き老朽化橋梁にフォームサポート工法を使用した際の安全性、効果について検証を行い安心や信頼を以って採用して頂けるように働きかけるとともにFS工法分科会としての社会貢献、国土強靱化の一助となるような活動を目指して参ります。

(5) 教育支援部活動

① (一財) 土木研究センターと連携した第3回技術者講座「最近の国土強靱化技術」

一昨年・昨年に引き続き、令和5年5月17日と24日の2日間、土木研究センターとLRRRIが共同主催で「第3回技術者講座『インフラ強靱化に関する最近のトピックス』」が実施されました。講師は、土木研究センターから落合盛人 材料・構造研究部長、井手統一 土工データベース情報管理室長のお二人と、LRRRIから常田賢一 顧問（土木研究センター顧問 兼務）、地盤品質判定士会神奈川支部 立花秀夫 支部長のお二人が担当しました。

いずれも、時宜を得た特に新しいテーマに関する講演で、会場・オンラインで参加された方々は大きな感銘を受けました。地盤工学会関東支部の共催を得て、2日間の講座に延べ132名の方々が参加されました。

② 創設2周年記念フォーラム

令和4年7月2日(土)の午後、「放射性物質含有土と向き合う」をテーマとして掲げて、「創設2周年記念フォーラム」が、茨城県産業会館の会場とオンラインの“ハイブリッド形式”で、会場に11名、オンラインで24名、計35名のご参加を得て開催されました。

講演には、「放射性物質」に関する権威と、最前線で取組まれた技術者をお招きしました。「廃炉地盤工学」の提唱者で、地球温暖化や脱炭素社会を実現するための新技術開発に積極的に取組まれる早稲田大学 小峯秀雄教授による「土と放射性物質との経験から考える『原子

力と土木の協業』と題する記念講演が行われました。さらに、福島県庁で、放射性物質含有土を扱う実務で中心的役割を果たされた高畑 修 氏の講演をいただきました。

2題の講演後には、講演者に茨城大学でも教鞭を執られた村上 哲 福岡大学教授、安原 LRR I代表理事もパネラーに加わって、「放射性物質含有土と向き合う」をテーマに、活発なディスカッションが展開されました。

③E & E・防災セミナーをNPOブルーアース・地盤品質判定士会神奈川支部と共同主催

一昨年度・昨年度に続いて、防災に関する「エネルギー&エコロジー（E & E）セミナー」が、「防災の視点から環境問題を考える」をテーマに3団体共同主催で、令和4年①11月24日・②12月8日・③12月15日の木曜日3日間、オンラインで開催され、延べ141名の参加を得ました。昨年度からは、NPOブルーアース・地盤品質判定士会神奈川支部に加えて、LRR Iも共同主催者に加わり、所属する6名が講義・話題提供・司会を担当しました。

中でも、丸山 泉 監事の「防災の視点から環境問題を省みる」は、建設事業と環境問題の歴史的変遷、土砂災害事例、自然生態系を活用した防災・減災対策と展開され、アンケートでも高い評価を受けた大変有意義な講義でした。LRR Iのメンバーが優れた知見を有することを、組織の外部の方々にアピールできました。なお、現役の行政職、防災ビジネスパーソン、防災の専門家など幅広い方々が講義を担当されました。さらに、熱海伊豆山土石流災害の被災者に寄り添ったインタビュー報告や、数多くの市民相談事例が紹介され、市民との連携を実感することができました。

3日間のセミナーの最後に安原代表理事が総括を担当しました。そこでは、「災害と環境相互関係での『強靱化』の意義、防災・環境における『ワガ（ワレワレ）コト化』の重要性、LRR Iなど「非営利団体」の果たすべき役割などが述べられ、本年度のセミナーも得るものが大きかったことを実感できました。

④企業研修支援講座の実施・資格取得支援講座の準備

1) 令和4年度企業研修支援講座

昨年度に引き続き、技術者支援講座「エルリ塾」として、「土構造物・基礎地盤コース」と「ICRT&DX講座コース」を実施いたしました。2つの講座には、LRR I 会員に加えて、外部からの専門家を招聘して、計12名の講師陣の下、「土構造物・基礎地盤コース」（15名）と「ICRT&DX講座コース」（6名）の参加者に対して、時宜を得たプログラム内容で、有意義な講義が実施出来たものと考えています。

2) 資格取得支援講座の準備

「エルリ塾」の実施と並行して、激変する資格試験環境の中、LRR I会員の資格取得支援を効果的に実施できるように、講師予定者による次年度へ向けた数次の「準備会」で、情報共有と議論を重ねました。その結果、資格試験を技術者が資質向上を図る強力な「道案内」と位置づけて、来年度には「（仮題）旬な用語講座」として、資格取得を支援する予定です。上

記、「グランパ・カズ塾Part 2」の参加者アンケート結果も活かして、更に改善を図る計画です。

⑤ エルリの活動を通じての継続教育の促進（CPDポイントの付与）

上記①～④を始めLRRRIが実施する講座や講演会に参加された方（聴講者・講演者共）には、継続教育ポイント（CPDポイント）が付与されます。建設系CPD協議会に参加する地盤工学会，土木学会，建設コンサルタンツ協会，全国地質調査業協会連合会，日本技術士会などに登録できますので，技術者として極めて重要な「継続的な自己研鑽」の指標としてご利用ください。さらに，既に取得された地盤品質判定士などの資格更新や，今後展開が予想されます「技術士（CPD認定）」の登録・更新などに活用が期待されます。

⑥ LRRRI技術情報：特別寄稿

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震から12年が経過した，2023年3月11日に合わせて，技術情報の特別寄稿として，「常田賢一：東日本大震災の復興により津波に備える沿岸陸域の姿から学ぶー津波災害から12年を経てー，LRRRI技術情報20230311，pp.1-88，2023.3」をホームページに掲載しました。

（6）事務局便り

本法人会員と個人会員のみなさまへのサービス提供および会員間の交流を図ると共に，地域社会，各種業界へ寄与，情報発信を進めるため下記の取り組みを進めています。

① 理事会（役員会）報告

令和4年度は8回の理事会（役員会）を開催いたしました。議事録を「会員専用ページ」に保存していますのでご覧ください。本法人の運営，活動に関する議論や決定事項が整理されています。

（9）情報活動

①メルマガによる情報発信

プルダウン型のHPによる情報発信に加えて，メルマガとニュースをプッシュ型で配信しています。メルマガは，会員全員に毎月配信しておりますが，配信後は，会員専用ページにアップしております。また，「LRRRIニュース」はプッシュ型情報発信としてホームページの表紙部分に掲載されています。

③ 役員便り

月に一度の「会員&役員だより」を掲載しておりますので，お目通しください。なお，令和5年度は法人会員（特別賛助会員，賛助会員）の皆様にも投稿をお願いいたしますのでご協力ください。

④ 内閣府からのヒアリング対応

令和5年3月22日に内閣府から、オンラインで「社会資本整備」に関するLRR I の考え方のヒアリングを受けました。茨城大学とも相談のうえ、LRR I の過去の業務事例を踏まえた“地域における国土強靱化のあり方”に関する防災・減災と気候変動への対応に関する意見を述べる機会となりました。

令和5年 貸借対照表

2023年(令和5年)6月30日 現在

一般社団法人 地域国土強靱化研究所

単位 円

科 目、摘 要	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預 金	8,342,875		
商 品	922,473		
未 収 入 金	3,576		
流動資産合計		9,268,924	
2 固定資産			
(1)その他固定資産			
差 入 敷 金	10,000		
固定資産合計		10,000	
資 産 合 計			9,278,924
II 負債の部			
1 流動負債			
預 り 金	84,790		
未 払 金	207,064		
未 払 法 人 税 等	367,100		
流動負債合計		658,954	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			658,954
III 正味財産の部			
1 基 金		3,650,000	
2 一 般 正 味 財 産			
その他の一般正味財産		4,969,970	
正味財産合計			8,619,970
負債及び正味財産合計			9,278,924

税理士 鈴木正人事務所

正味財産増減計算書

〔 自 2022年(令和 4年) 7 月 1 日 〕
〔 至 2023年(令和 5年) 6 月 30 日 〕

一般社団法人 地域国土強靱化研究所

単位 円


科 目	金	額
I 一般正味財産増減の部		
1 増加原因		
法人会費収入	1,600,000	
個人会費収入	120,000	
入会金収入	104,000	
セミナー等収入	1,131,446	
収益事業収入	2,687,096	
預金受取利息	78	
増加原因の部合計		5,642,620
2 減少原因		
(1) 非収益事業原価		
賃金給料	214,023	
セミナー講演料等	170,770	
非収益事業外注費	46,046	
非収益事業原価計		430,839
(2) 収益事業原価		
収益事業仕入高	1,558,233	
収益事業管理費	97,548	
収益事業期末棚卸高	△ 922,473	
収益事業原価計		733,308
原価合計		1,164,147
(3) 管理費		
役員報酬	387,701	
雑給	614,385	
地代家賃	120,000	
旅費交通費	200,009	
通信費	4,100	
交際費	82,968	
消耗品費	36,720	
租税公課	11	
会議費	33,814	
支払手数料	14,930	
顧問料	214,500	
雑費	40,150	
管理費計		1,749,288

監査報告書

一般社団法人 地域国土強靱化研究所
代表理事 安原一哉 殿

令和5年 8月 7日

一般社団法人 地域国土強靱化研究所

監事 丸山 泉 

監事 瀬越 直樹 

私達は2022年(令和4年)7月1日から2023年(令和5年)6月30日までの令和4年会計年度における会計及び業務の監査を行い、下記のとおり報告する。

記

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録及び財務諸表に対する注記は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

令和5年度事業計画

1. 活動方針

社是である“先義後利を以って共助と自他共栄”を念頭に置き、キャッチフレーズとして、SDGsの考え方を念頭に、“技術と技術，組織と組織をつないで，新たなソリューションを見出すこと”を謳い，これを令和3年度のLRRIのスローガンとする。具体的には，①防災・減災と環境負荷低減を目指した各部門業務の推進によるレジリエンスの高い，共生型地域社会創成への貢献，②他に比肩できない分野融合型技術の創成によるLRRIの独自性の露出化・差別化，③会員と地域の関係者との英知の集結と目標と計画の共有，を以って地域社会の強靱化に貢献することを通じて，The consultant for consultantsの実現を目指す。本年度に力点を置く業務は以下の通りである。

- 1) インフラの長寿命化技術の開発と展開
- 2) 気候変動対応技術の集約とLRRIとして取り組める技術の提案とビジネス戦略の追求
- 3) 社会人継続教育支援の推進
- 4) 新たな部門設置と推進

2. 具体的な活動

- 1) 地域国土強靱化に資する提案，設計そして施工業務の推進（事業部）

役員&社員の技術を生かした委託業務を受注する。

- 2) 地域国土強靱化に資する新たな技術の開発と推進（事業部&技術開発部・展開部）

会員の所有する技術の集約と融合に基いた地域国土強靱化に資する新たな技術の開発と推進を実践する。具体的には，つぎに示すとおりである。

- (1) IRT研究会・FS分科会の推進

橋梁などのインフラの長寿命化を目指す独自の技術の確立と広く展開することを目指す。

- (2) 気候変動緩和・適応技術の集約と新たなビジネスの探求

茨城大学から委託予定の“我が国における気候変動適応技術と政策”関連業務を推進し，その中からLRRIとして特に取り組める技術を抽出しそれを展開する方策を検討する。

- 3) 地域や会員の要請に基づいたフォーラム，講習会，講演会の実施（教育支援部）

- (1) 社会人継続支援&資格取得支援講座の実施

令和4年度の「エルリ塾」の継続企画として，“旬な用語”を念頭に置き，“自己研鑽を通じた資格支援講座”として，座学と通信教育を組み合わせた新たな形式の講座を開催する。

4) 新たな部門設置と推進

「DX部門」と「出版部門」を設置して会員還元をできる具体的な活動方針を企画し推進したい。このうち、「DX部門」の設置については、今後の戦略構築のために、須田副代表理事を中心として、“準備会“を開くことから出発するものとする。

【LRRI】 令和5年度総会 第2号議案補足資料：令和5年度予算案】

◆令和4年度収支予算（単位：円）				
支出		金額	収入	金額
			前年度からの繰越金	4,969,970
設備費用	(内容) ノートパソコン レッツノートFV シルバー CF-FV3JDTCR	262,410	金融機関からの借入金	0
	マイクロソフト Surface Go 2	67,000		
	設備費用の合計	329,410	本事業の売上金、会費等 (内容) ・ 事業収入	1,500,000
運営費用	(内容) ・ 人件費（アルバイト経費、受託人件費）	1,920,000	S18受託業務	2,125,000
	・ 社屋賃貸料	120,000	「エルリ塾」	
	・ 本社維持費（通信費、ソフト使用料、 消耗品他）	180,000	第4回技術者講座 意見書作成 イベントサポート業務	
	・ 研究会運営経費（勉強会への 支援経費含む）	800,000	・ 会費収入	300,000
	・ 謝金（講演会 & 研究会用）	200,000	・ 新規会費収入	0
	・ 会場使用料（講演会、交流会、理事会）	100,000	競争的資金	
	・ 旅費・交通費（高速代、燃料費含む）	400,000		
	・ 広報費（リーフレット更新、HP維持）	300,000		
	・ 税務関係経費	400,000		
	・ 役員手当	220,000		
	・ （一財）土研センター年会費	100,000		
	・ 木材利用地盤改良研究会会費 GLOSS 研究会会費	30,000 150,000		
	・ 顧問料	214,500		
	・ 予備費	431,060		
	運営費用合計	5,565,560		
設備費+運営費合計		5,894,970		
次年度への繰越金		3,000,000		
支出合計		8,894,970	収入合計	8,894,970

<参考資料>

LRRI交流会 新入会員紹介資料

◆報告事項 この1年間の入会，退会状況

(入会)

- ・賛助会員 (株) 福山コンサルタント
(代表者：福島 宏治 連絡窓口：大塚 宣昭)
- ・賛助会員 (一社) GLOSS 研究会
(代表者：ヘマンタ ハザリカ 連絡窓口：村山 美香)
- ・個人会員 小林 諒
- ・個人会員 森 修一
- ・個人会員 常田 賢一 (兼 顧問)
- ・個人会員 末次 忠司 (兼 顧問)

会員種別の変更を認める

- ・協力会員 浅田 寛喜 (元~~株~~福山コンサルタント) を個人会員から協力会員に変更
<理由>熊本大学大学院&研究員として転出のため

(退会)

下記の会員の退会を認める

- ・個人会員 増田和美 元・~~株~~水工エンジニアリング
<理由>自主退会のため
- ・学生会員：浅野太我 元・茨城大学大学院生
<理由>大学院中退のため

以上